

令和3年度広島県教育奨励賞受賞の状況

個人（学校教育）

名前	所属 職名	功績等
志田原 聡美	福山市立久松台小学校 教諭	学年を超えた内容に触れるカリキュラムの作成や、発問、切り返し、視点を変える一言といった教師のファシリテーションスキルの向上などについて教職員間で協議しながら、研究を進めている。総合的な学習の時間では、3～6年の合同授業を実施するための校内行事等の調整、SDGs と関連付けたテーマ設定や探究の進め方についての校内研修実施など、カリキュラム編成・実施の中心的な役割を担っている。また、子どもたち1人1人の学びの様子や変化を丁寧に見取るために、ポートフォリオを活用した記録・ファイリングなど、評価の見直しを進めている。
世良 幸子	福山市立新市中央中学校 教諭	令和元年度、民間企業と福山市教育委員会が共同で実施した教職員研修「21世紀型ティーチーズプログラム」を受講した。研修では、教育の課題や未来、学びのメカニズムについて考え、他の受講者と学ぶことや教えることの本質的な意味を協議した。研修で学んだことは、現在の実践につながっている。令和3年度は、福山100NEN 教育推進協議会数学部会の北東ブロックリーダーを務め、自身の実践を市内に発信している。

団体（学校教育）

団体名	功績等
福山市立鞆の浦学園 校長 宇根 一成	令和2年度から福山市の「教科・学年の枠を超えた教育課程の編成・実施パイロット校」の指定を受け、「子ども主体の学び」づくりに取り組んできた。学校独自の教科「鞆学」では、地域課題の解決やSDGs の達成に向けたテーマに取り組み、鞆学プロボノメンバー（地域の専門家）による出前授業や校外活動を実施するとともに、「鞆学」を通して身に付けた課題発見・解決能力や情報活用能力などを教科の学習にも生かしている。